



## 交流・研修会情報

### 第2回

# 「ボランティア・地域活動情報交流市」

開催します。

今年もやります！富士見で活動するボランティアや地域活動を紹介し、みんなで交流し合える市場です。ボランティアさん、NPO、有志のグループなど、さまざまな地域活動をしているみなさん、その他関心がある方ならどなたでも参加できます。みんなで寄って交流しませんか？

と き： 10月25日(土) 午後1:30~3:45

ばしよ： ふれあいセンターふじみ ゲートボール場

#### かつどう市場



活動者のみなさんが、自分たちの活動について見せ(店)るスペースです。活動の様子や、活動にまつわるものを展示して紹介し合い、交流します。

体験できるコーナーもありますよ～



#### おしゃべりカフェ

「café 赤とんぼ」が出張出店しています。日頃の活動について、その他何でもみなさんでお話しながらホッと一息しましょう♪



#### ふれあいバザー

活動者のみなさんによるバザーです。活動上のハンドメイド品や、活動にまつわるものなどの販売を予定しています。

#### ステージ・フロアイベント

参加者・団体による実演や発表があります。お話、多ジャンルに渡る演奏などなど…お楽しみに！



情報交流市で大活躍！

## 「活動ポスターづくり」

いろいろなところで自分たちの活動を紹介できる！次の活動のヒントになる！…そんな「活動ポスターづくり」。一緒にわいわい作りませんか？ぜひお気軽に、お仲間お誘い合わせてご参加ください。



昨年作成されたポスター。力作ぞろいで、コミプラでポスター展もできました。

と き： 9月4日(木) 午後1:30~3:00

ばしよ： ふれあいセンターふじみ 研修室

必要な物： 活動の内容に関連したもの(チラシなど)、活動の写真、活動に関する小物、作品等。



お問い合わせ・お申し込みは 「ボランティア・地域活動ネットワークふじみ」事務局  
富士見町社会福祉協議会 地域福祉係 ☎ 78-8986 まで





町を元気にするヒト・モノ・コト...

# みっけ!

今回はこの2グループです

## 宅配ボランティアグループ

～お年寄りとお豊かなひとときを共に!～

- \* 身体の不自由な方や、交通手段がなく図書館に行けない方々に図書館の本を借り、お届けします。
- \* ご希望の方には本を読んで差し上げます。
- \* お話のお相手もします。
- \* 個人に限らず自主グループで活動している方々



紅林荘での活動。とても本がお好きな方です。

とも一緒に読書を楽しんでいます。

…と、こんな活動をしているのが宅配ボランティアです。

私達はお年寄りとの交流で多くの元気をいただいています。人間のあるべき姿や、先人たちの知恵も学べます。何よりの贈り物は、お年寄りの素敵な笑顔です。読書の幅も広がり、人間の幅も広がりました。

もし、身近にこんな事を必要としている方がおいでだったり、ご自分も活動に参加したいと思われる方のご連絡をお待ちしています。

ご連絡は富士見町図書館

電話 0266-62-7930 まで。



たくさんの作家や小説の名前が書きこまれたノート。2週間で5冊読まれる方にお届けしている本の記録です。

## 八ヶ岳南の学校

八ヶ岳南の学校は、諏訪養護学校を卒業した障がいのある人たちの生活、就労、学習、余暇活動などを支援しているボランティア団体です。

10年前から蔦木の畑を借り、農業を中心に、離職した卒業生たちの働く意欲を大事にしながらか就労支援をしてきました。2年前から信濃境駅近くに活動拠点をつくり、県の「元気づくり支援金」をいただき、陶芸や木工教室、絵画展や映画会などを開催してきました。地域の人々と共に誰でも学べる学校づくりを目指してきました。



お陰様で、離職していた卒業生3名が再就職でき、町の福祉課や社協などからの支援を得て、地元で根差した活動が実ってきています。

今後は、高齢者支援にも活動を広げ、高齢者に代わって草取りや雪かき、施設訪問による音楽発表会などで地域社会に貢献したいと考えています。



みっけでおじやました日は午前中は畑仕事、午後は仕事を協力して整理しておられました。

連絡先 八ヶ岳南の学校 代表 関 祐二 090-7267-2011

住所 諏訪郡富士見町境7856-5 / 電話・FAX 0266-64-2933

## ボランティアリレーコラム きん・ぼ・み・ち

「事実は小説より奇なり」の言葉通りの出来事が新聞・テレビで報道され、それを見たわれわれは大きな衝撃を受けた。

五月十四日の朝刊「七年ぶり、妻と会えた」の見出しで、認知症による徘徊が原因で七年前から行方不明だった女性が群馬の施設にいたことがわかり、念願の再会をした。感動の再会のはずなのにテレビに映し出された妻は表情を強ばらせ、目を閉じたまま夫の呼びかけに答えることはなかった。このときの夫の心中は、と思うとテレビの画面を正視できなかった。

現在、認知症の行方不明者は一年で約一万人保護されても身元がわからない方が多いという。今回も施設に保護されているながら、情報が共有されていなかったり、手違いがあったり、身元がわからないまま七年が経過してしまい、たまたま、NHKの放送で「身元不明のまま介護施設で暮らしている女性」との紹介の映像を近親者が見ていてわかったという。再会を果たしても同居は不可能とのこと、なんと残酷なことだろうか。

また、行方不明のまま亡くなってしまっている方もおられるという。こんな状況を少しでも減らすため、行政は全国規模で早急に対策を検討してほしいと思う。

いつ、身の回りでおこっても不思議でない現実、近隣地域での見守り体制も必要、また個人的には衣服の裏側に名札を付けるなど早期発見と保護のために地域全体で知恵を出し合っ  
ていかななくてはと思う昨今である。  
(びん)

